

高退協文庫

俳句

花蘇鉄の四季

小澤 幸泉

初夏の佐渡の山々とおい人
紫陽花の夢を育てる老夫婦
石槲花の丘一面に内原野
暮山の稜線いよよ夏に入る
義母逝きていよよ明かに春北斗

詩

いちどだけの訪問

西村雅人

五歳の頃 母に連れられて
坂の下を曲がり
古ぼけた家を いちどだけ
訪ねた記憶がある
緑がわからあがって
母は 穴だらけの障子を開いた
午後の すこし傾いた日ざしが
部屋の中にさしこんだ
ふとんの中に
知らないおじいさんが寝ていた
ものすごい臭気がたちこめていて
目の奥が痛んだ
母は 何事もなにかのように
おじいさんに声をかけた
来たぞね
雅人も 連れて来たぞね
おじいさんは 裏声のかほそい声で
おおきうなったねえ
白いひげだらけの顔が
うれしそうな笑顔になった
母は人目をさけるように
障子をしめたが
部屋の中は なぜか不思議なくらい
光につつまれている
母が おじいさんの瘦せた手と
私の手を取り 重ね合わせる
かすれた声が ふるえながら何か言ったけれど
よく聞き取れず わからなかった
半世紀を越えた かすかな記憶
わからないことは 空白のまま
あの部屋にさしていた午後の光が
おじいさんの思い出を 明るく照らしている

川柳

帆傘集

小澤 幸泉

狐兎なれど子ども二人孫五人
鳥帰る父母眠る北の国
赤パンツ傘寿のわたし叱咤する
キツチの十字架見詰め受難廻
東京へ戻る気はない帰れない
街灯りしつかり老いのガラス窓
窓越しに最期の時がよく見える
七十余年年の鬼みと妻の鞭

短歌

大阪よりの手紙

叶風淑子

息吐いて吸って全身よみがえるヨガ教室はいのちの時間
「パ・タ・カ・ラ」の反復発声も理にかなう土佐発信の百歳体操
大阪より拙歌を見ての手紙とどく 高退協の旧安あり嬉し

高知城

山上悦子

弓なりの城壁仰ぐたおやかと思えるまでの石積みの技
カンベレ村に電気来たりて今年は懐中電灯不要となりぬ
火曜のみ勤めし八年終了し週は節なきごとき七日

不寛容、排除の時代

山本晶子

不寛容、排除の時代になりてゆく今日もいじめにて少女自死する
朗らかに生きがたくあり新聞を開けば園児が事故で死にをり
人間が一番愚かと思つづく思ふ戦争をすする地球を汚す

高退協第173回読書会
8月22日(木) 13時～ 於ムト一荘 201号室
テキスト 『日本が壊れていく-幼稚な政治、ウソまみれの国』 斎藤 貴男著 筑摩書房
参加費500円 参加希望者は直接会場へお越しください。初めての方大歓迎です。
この本の内容 (ネットでみつけたので貼り付けました。高退協ニュース担当 大川)
2012年12月に第二次安倍政権が発足。その後、五年半の間に、特定秘密保護法、安保関連法(戦争法)、共謀罪法などを多くの国民の反対を押し切って成立させた。一方で、「モリ・カケ」問題をはじめ、政治家や官僚の不祥事が相次ぎ、政治に対する信頼が大きく損なわれている。にもかかわらず、政権と党内の安倍一強体制は揺るがず、野党は対抗勢力たり得ていない。本書は憲法の基本原則をおかす安倍政権の危険な体質を痛烈に批判し、なぜ日本の政治がここまで劣化したのかを徹底解剖する。

読書会でこの本を推薦した高橋泰宏さん「今の日本の政治が幼稚っぽい、嘘ばかりでこの本はそれに対する批判的な内容ですが、私は政治の面だけではなく、最近の事件・事故も政治が関係しているのではないかと思います。」
読書会のメンバーの小島真子さん「会の仲間も高齢化を迎え、参加人数も寂しくなりました。多くの人に来てもらったらほんとにうれしいです。初めての方大歓迎です。気軽に顔を出してください。」

電話でお聴きしたとき、お二人はこんな感じのことをおっしゃってました。しみじみと「いろんなひとに来てほしい」と話していました。基本、偶数月の20日前後(たぶん)の木曜日に会を開いているようです。事前の連絡はしなくてもそのまま顔を出してくれたらいいとのこと。参加してみませんか。(高退協ニュース担当 大川法由記)